

透析医のひとりごと

「昭和 42 年卒， 巳歳泌尿器科医の透析経験」—— 青木 正

〈1967 年京都府立医科大学を卒業〉

1941 年生まれ，巳歳泌尿器科医の透析経験について報告いたします。青医連運動による国家試験ボイコットなどの激動の時代に大学を卒業（通称昭和 42 年卒），母校の泌尿器科学教室へ入局しました。教室は 1964 年に皮膚泌尿器科学教室より分離独立，腎機能障害は教室の主要なテーマで，1965 年から透析療法に着手，1967 年には維持透析を開始しています。手術後の手術室などを間借りしての治療でしたが，1968 年 11 月に東京で開催された第 2 回人工透析研究会には，小田完五初代教授が主題「透析の事故と対策」について報告されています。腎移植は第二外科学教室（現・移植・一般外科，吉村了勇教授）が他に先駆け積極的に取り組み，高い評価を得ておられます。また，鴨川を挟んで東隣の京都大学でも泌尿器科学教室が関心を示され，1969 年 6 月に開催された第 3 回人工透析研究会では京都大学加藤篤二教授が総会会長を務めておられます。

〈1969 年京都第一赤十字病院へ転勤〉

同門の久保泰徳助教授（1971 年に京都初のサテライトセンター久保医院を開院），小野利彦先生（現・桃仁会病院）とともに大学を辞し，京都第一赤十字病院へ転勤，馬杉好子先生（内科，後に馬杉医院，桃仁会病院）の協力を得て透析療法を継続しました。シャントは率先して内シャントを採用，小野先生が 1974 年の日本腎臓学会総会で「Internal shunt の長期成績について」を発表されています。外シャントから解放され，自分の両手で顔を洗える喜びの声や，透析歴 30 年の方より「シャントともいまだ現役です」との近況報告は嬉しいものです。

〈1972 年 7 月西陣病院へ転勤〉

増加する患者に対応するため，西陣病院（院長，泌尿器科，中橋彌光先生）へ転勤，赴任時は木造の小規模な病院で，透析ベッド数 4 床から始めました。2007 年 8 月には新本館完成に合わせて，ワンフロア 115 床の透析センターへ変貌，2013 年 6 月現在，ベッド数 133 床，最大患者数 532 名です（腎臓・泌尿器科部長，透析センター長，今田直樹先生）。

〈2010年4月特養併設のにしがも透析クリニック開設〉

一般病床の機能分化が進められるなか、高齢者を受け入れる選択肢のひとつとして開設されました。泌尿器科（透析）の無床診療所で、ベッド数は18床、昼間透析のみで、協力病院は同じ法人の西陣病院です。勤務して4年目となりますが、高齢者が安定した維持透析を継続され、自立した日常生活を営んでいただけるよう努力しております。

〈日本透析医会とのご縁〉

京都から理事として中橋先生、小野先生、青木、その後岩元則之先生（桃仁会病院）を順次ご指名いただいております。中橋先生は医会設立当初よりご尽力され、80歳を超えた今も現役の臨床医として活動、折々に貴重な意見をいただいております。そして、初期の日本透析医会雑誌 Vol. 1, No. 2 に「単一施設における透析患者の腎移植に対する意識調査」、Vo. 2, No. 2 に「当院における糖尿透析患者の現況」を青木が報告しております。小生は理事任期中、広報委員会、適正透析療法委員会・医療廃棄物対策部会、合併症対策委員会の委員を仰せつかりましたが、広報委員会委員長の久保和雄先生は西陣病院内科の垣内孟先生が報告された Swan-Ganz 熱希釈カテーテルを右大腿静脈より挿入して行った「透析における循環動態 とくに心拍出量について」（人工臓器 8 巻 4 号 1979 年）をよくご存じで、すっかり打ち解けて委員会に加わることができました。山崎親雄会長をはじめ、理事や委員の皆様、そして会員の皆様には任期中寛容の精神で接していただきましたこと、紙面をお借りして感謝申し上げます。

〈次世代を担う透析医〉

今日、慢性腎臓病（CKD）は世界腎臓デーの制定などにより、広く知られるようになってきましたが、京都では、1979年9月に京都腎臓病総合対策推進協議会を結成、学校検尿制度や透析人口半減運動の提言を行い、市民向けのシンポジウムを開催してきました。初代会長は内科の高島雅行先生で、事務局長は京都腎臓病患者協議会の方をお願いしております。透析に関心のある泌尿器科医は、京都透析医会をはじめ、京都透析症例検討会、京滋腎移植・透析懇話会、京都透析懇話会などの場で腎臓内科医、移植外科医などと交流を深め、腎不全治療の研鑽、充実に努めております。そして、母校の泌尿器科学教室では、渡邊決・先代教授、三木恒治・現教授のご指導により、次世代を担う透析専門医、指導医が育ちつつあり、心強い限りです。

以上、已歳泌尿器科医の透析経験について述べました。已歳晩にあたり、皆様には「無事日々おだやかに」よき年をお迎えいただきますよう祈念し、透析医のひとりごととさせていただきます。

にしがも透析クリニック（京都）